

JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

氏名	鈴木 航太	学校名	新潟 都・道・府・ 県 村上市立保内小学校
担当教科等	全教科	対象学年（人数）	5年 1組（24名）
実践年月日もしくは期間（時数）	元年 10月 ～ 11月（12時間）		

【実践概要】

1. 実践する教科・領域： 国語		
2. 単元(活動)名： 「明日をつくるわたしたち」		
3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標 授業テーマ： 「身近な学校問題をSDGsと関連させ、考えを明確にして話し合い、提案する文章を書く」 単元目標： ◎話題を決めて、収集した知識や情報を関連付け、互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うことができる。 ◎自分たちの身の回りにある問題について調べ、解決のための提案書を書くことができる。 関連する学習指導要領上の目標： 本単元は、学習指導要領の「A話すこと・聞くこと」の「ア 考えたことや伝えたいことなどから話題を決め、収集した知識や情報を関係づけること。」「オ 互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。」及び「B書くこと」の「ア 考えたことなどから書くこと」を決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理する。「イ 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること。」「ウ 事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。」「カ 書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うこと。」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の「イ 言葉の特徴やきまりに関する事項・言葉の働きや特徴に関する事項の（カ）語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。」に関連している。		
4. 単元の評価 規 準	①知識及び技能	事実と感想、意見を区別して、目的や意図に応じて提案書を書くことができる。
	②思考力、判断力、表現力等	収集した知識や情報を関連付けて、話し合うことができる。
	③学びに向かう力、人間性等	問題に関する情報を集めたり、自分の考えをまとめたりしようとしている

5. 単元設定の理由・単元の意義 (児童／生徒観、教材観、指導観)	【単元設定の理由】 本単元は、「話すこと・聞くこと」と「書くこと」の複合単元である。これまで、国語科で世界の現状とSDGsに関して、資料を基に自分の考えをまとめる活動を行ってきた。そこから、さらに本単元では「自分たちから発信」を意識して授業に臨ませたい。			
	【児童／生徒観】 本学級の児童は、知的好奇心が高い児童が多い。しかし、児童は海外に関する知識や関心はほとんど無かった。そのため、教師海外研修に行く前から、海外の話を朝の時間にしたり、授業内にもSDGsに関わる内容を取り入れたりしていった。すると、次第に興味を持ち始め、自主的に海外のことや環境問題を調べる様子が見られるようになった。			
	【指導観】 本単元に入る前に、SDGsについて理解する活動、国語科で「2030年の日本は良くなっているか」をテーマに、SDGsから目標の一つを選び意見文を書く授業等を行っている。一人一人がSDGsについて、知識をある程度習得した状態から、本単元では、パラグアイの国としての問題点を他人事とせず、自分たちの身の回りにも同じような問題が起きていないかと考えさせたい。また、学校の問題点を解決するために、友達と知識を持ち寄って、話し合いながら課題解決する子どもの姿を期待する。その際に、SDGsを用いることで、子どもたちの視野を広げ、根拠を基により説得力のある提案書を書けるようになるだろう。最終的には、提案書に書いたことを全校に伝えるために、学級から代表を決め、全校集会で学校の問題点について発表させる。			
6. 単元計画（全 12 時間）				
時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など ※：JICA リソース活用はこちらに記載
1	学習の見通しをもとう	提案書を書く計画を立て、学習の見通しをもつことができる。	提案書を書くことを知る 全 12 時間の流れを確認する。	・ 単元計画表
2	中学生のSDGs授業を体験しよう	効果的なスピーチの仕方を体感し、これからの学習に対する意欲を高める。	地元中学生から SDG s に関する授業を受ける。	
3	提案書の書き方を学ぼう	提案する文章の書き方を理解することができる。	提案書の書き方を教科書から学ぶ。	
4 本時	身近な問題が SDGs とつながっていないか話し合おう	既存の知識や経験と結びつけながら、SDG s の視点を基に見方を広げて話し合うことができる。	説得力を増すための理由付けの仕方を、SDGs の視点で考える。	・ SDGs ロゴ ・ 学校問題点写真 ・ 現地写真（学校・道路） ・ 自作ワークシート
5	学校にSDGsにつながる問題点はないかな	SDGs と関連させながら、学校の問題点を探すことができる。	一人一人がカメラをもち、SDGs とのつながりを考えながら、身近な問題点を探す。	
6	グループに提案する文章を書こう	SDGs と関連させた理由付けを意識して、提案する文章を書くことができる。	自分の取り上げたい学校の問題点について、情報を集め、自分の考えをまとめる。	

7	グループで話し合い、提案する問題を決めよう	それぞれの問題についての考えを発表し合い、協議してグループで提案することを決めることができる	グループで話し合い、グループとして提案する学校の問題点を決める	
8	提案書を作成しよう	決まった問題について、内容と理由、現状と問題点、解決する方法を考えるために、役割分担して資料を集め、提案書としてまとめることができる。	グループごとに決まった学校の問題点について、分担を決め、調べながら提案する文章を作成する。	
9	提案書を作成しよう		みんなの記述をもちより、提案書を作成する。	
10	効果的なプレゼンの仕方を学ぼう	書きまとめた提案書を読み返し、推敲することができる。	相手に伝わるためにより効果的なプレゼンの仕方を学び、推敲&発表練習をする	
11	学級提案会を開き、全校に提案する問題点を決めよう	提案する文章を発表し合い、感想を交流することができる。	学級で提案会を行い、クラス代表を決定する。	
12	学習の振り返りをしよう	協議をしたり、提案したりする活動を振り返り、学びをまとめることができる。	学習を振り返る	

7. 本時の展開（4／12 時間目）			
本時のねらい：身の回りにある問題点は、つながり合っていることに気づき、既存の知識や経験と結びつけながら、SDG s の視点を基に見方を広げて話し合うことができる。			
過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・予想される児童の反応・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料（教材）
導入 学習意欲の高まり 課題設定	T：水が出しっぱなしだと、どうして良くないのかな？ C：水のお金がかかる。 T：他にも、良くないことってないのかな？ T：これはパラグアイの学校の写真です。パラグアイの多くの学校は、雨が降ると学校が休みになるそうです。 T：では、次にパラグアイの道路の写真を見せます。気づくことはありますか。 C：道路が水びたしだ！しかも、ぼこぼこしてる！	・出しっぱなしの水道の蛇口、給食の残りもの、ベランダに飛んでいったストローの袋(プラゴミ)を見せる。 ・全体の話し合いで「雨がふると学校に行けない」から、児童の発言をつながりながら広げてい	・水道の蛇口写真  ・給食の残り物写真 

(10分)	T：実はパラグアイの道路は国の約87%の道路がこのような整備されていないのです。 T：では、「どうして道路が整備されていないと良くない」のでしょうか？ C：学校にいけないと、勉強がわからなくなる。 C：勉強が分からなくなるとなりたい仕事につけない。 C：仕事につけないと、国として生産の能力も下がる。 T：身の回りの気になることにも、もっと問題が隠れているかもしれませんね。説得力のある文章を書くためにも、もう一度学校の気になることに戻って、どんな問題があるのか見方を広げて考えていきましょう。	く。 子どもたちの考えを、SDGsの視点で分類分けしながら、ウェビングマップの形で黒板にまとめていく。 (※板書写真参照)	・プラゴミ写真  ・パラグアイ道路 
展開 課題解決 個で (5分) 班で (15分) 全体で (10分)	課題：説得力のある文章を書くために、かくれた問題をみつけよう T：写真から考えられる問題についてウェビングマップを使って考えていきましょう。 C：食べ物が残るとそれを焼却しなきゃいけないから、お金がかかる。燃やすにはお金だけじゃなくて、石油もつかう。資源も無駄になる。 T：グループで写真について話し合しましょう 水道の蛇口グループ C：どうして水が出しっぱなしだといけないのかな。つながれる？ C：水は限りある資源だと学んだよね。それで、いずれ無くなってしまう。 C：のみ水が無くなると、農業も工業も止まって前に調べたよね。 プラゴミグループ C：どうしてプラゴミが外に捨ててあったら良くないのだろう？ C：それが海に飛んでいくと、魚が食べて死んじゃうから。 C：魚がいなくなると、最終的には人間も食べ物が減るってことだ。 T：それでは、話し合ったことの中で、最も説得力のある問題についてまとめて、発表しましょう。	・SDGsの視点カードを用意しておき、つながると思ったら適宜、取りにくることを伝える。 実際のグループワークシート 	・SDGs ロゴ (それぞれを切り分けておく) ・グループ用ワークシート

	C：水が出しっぱなしだと、水が無くなり農業や工業の生産が止まってしまうことが最も説得力がある問題だと思います。なぜならば、農業や工業の生産が止まると、身の回りの食べ物もなくなっていくことを伝えれば説得力がうまれるからです。		
まとめ			

まとめ：身近な問題を、世界の目標と関連付けて考えれば、説得力のある文章を書く手がかりになる。

(5分)	T：「説得力のある文章を書くためには～」に続けて振り返りを書きましょう。 C：説得力のある文章を書くためには、いろいろな問題を見つけて、その中から一番大事な問題を見つけると良いことが分かった。		
実際の板書写真			



8. 評価規準に基づく本時の評価方法

- ・既有の知識や経験を基に、問題点を見つけ出そうと意欲的に話し合っている。(観察・ボード)
- ・既有の知識や経験から、自分の考えたことをワークシートに書くことができる。(ワークシート)
- ・話し合ったことを基に、説得力のある文章を書くためには広い見方で考えることが大切であることに気づいている。(ノート)

9. 学習方法及び外部との連携

地元中学生の SDGs 授業

地元中学生の SDGs に関する授業を、本単元の導入部に受けさせた。子どもたちは、これから国語の授業で行うことについて見通しをもち、さらには、「こんなプレゼンができるようになりたい」と学習意欲を高めることにつながった。

10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

- ・全職員に教師海外研修での学びを紹介
- ・新潟県教師海外研修報告会にて実践発表

【自己評価】

11. 苦労した点	どのようにしたら、子どもが意欲を持って「提案書を書きたい」と思わせることができるかが特に悩んだ点である。本単元までに社会科で「世界と日本の食料自給率」について、SDGs と関連させて授業をしたり、総合的な学習の時間では「フードロス減らす取組」について日本の現状を基に子どもたちから発信させたりして世界や SDGs に関する知識・関心が高まるような活動を設定してきた。また、本単元の導入部で、地元中学生のプレゼンを見せたことも「こんな風に自分たちも発信したい!」という意欲を持たせることにつながった。 また、実践を通して感じた難しさとして、世界の現状や環境問題をインターネット等を用いて調べさせたが、なかなか必要な情報が見つけれなかった。また、情報に対して自身の実感を伴わず、学校の問題と結びつけても机上の空論のように説得力の欠ける提案書になってしまうことがあった。
12. 改善点	事前に SDGs に関する知識を子どもたちにもっと習得させておくと、提案書を書く際にも、話し合う際にもより根拠を明確に自分の意見を伝えることができたのではないかな。 また、調べ学習の際の情報源をより豊かにしておく必要があった。参考となるインターネットのページを事前にリストアップしたり、参考となる書籍や映像教材等を準備しておいたりすると良かった。
13. 成果が出た点	身近な学校問題を取り上げ、SDGs の 17 の目標と関連させたことで、「一つの問題にも多くの SDGs が隠れている」と根拠を書く際の考えの広がりが見られた。 また、そこから自分たちの身の回りの問題点につなげていったことで、世界の問題を他人事ではなく、自分事として捉える姿が見られたことも非常に良かった。
14. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	<u>児童の感想より</u> ○今まではあまり気にしていなかった学校の問題点にも、たくさんの SDGs とつながっていることに気がつきました。 ○自分たちの班は、一つの問題から SDGs の 17 の目標全てにつなげることができました。これから、自分で学校の問題を探しに行くときも、同じようにつなげて考えたいです。
15. 授業者による自由記述 (教師海外研修に参加した本学習指導案作成者として、他の教員へのメッセージなど)	自分の思いとして、「国際・環境問題を自分事として捉え、動き出す子どもを育てたい」という目標があった。実践をしていく中で、最初は「貧しい国がかわいそう」と考える子どもが多かったが、次第に「日本にも問題点が多くある」「自分たちにできることはないか」と考えに変容していった子どもの姿が見られた。今後も自分自身が、国際理解について学び、子どもたちに伝えられる教員でありたいと思う。今回このようなきっかけを持てたのも、教師海外研修に参加して外国の現状と問題点について直接肌で感じたり、同じ志を持つ他校種の仲間と過ごせたりしたからである。今後もこの経験・つながりを大切に、教師として子どものために何を教えたらいかが、考え続けていきたい。

参考資料：





